

令和5年度第1回 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和5年7月18日(火) 14:00~15:30
会場	こども発達センター 体育館棟 研修室
出席者	岸本美紀、花田直樹、辻健史、外山克之、野崎敬子、平岩ふみよ、内藤智宣、塩谷典子、川原場仁子
欠席者	大賀肇、山本司将
傍聴人	1名
事務局	保健部 健康増進課長：野澤秀喜、母子1係係長：近藤亜有子、こども部 保育課長：大須賀秀樹、障がい福祉課長：高橋広 こども発達センター長：早川文雄、こども発達医療センター所長：福本由紀子 こども発達支援センター所長：加藤里美、こども発達相談センター：坂田勝彦所長、岩城和美、小林広美、林尚子、藤野晋爾
議題	1 令和4年度岡崎市こども発達センター事業報告(資料1) 2 令和4年度岡崎市こども発達センター評価指標(資料2)
内容	早川センター長挨拶 各委員からの挨拶 大賀様、山本様は欠席。川原場様は、公務のため遅れて出席すると連絡をいただいている。 1 令和4年度岡崎市こども発達センター事業報告(資料1) 一度御確認いただき、お気づきの点があれば担当まで教えていただきたい。 2 令和4年度 岡崎市こども発達センター評価指標(資料2) 【健康増進課 野澤】・早期発達システムの目標及び指標 (資料2-1) について説明 【三河青い鳥医療療育センター 辻】1歳6か月児健診の要観察の割合が3人に1人となっているが、これが適正なのか、根拠を教えていただきたい。 【小児科医会 花田】1歳6か月児健診では、発達に関して、特に言葉を中心に評価する。言葉を中心に診ていくと、後になってみるとやっぱり気になることが多い。要観察が3分の1であるが、自分としてはこんなものかと思っている。

【健康増進課:近藤】要観察は25%くらいで推移するとよいのではと考えていたが、令和4年度も30%を超える方が2歳でのレインボーの会(再健康診査)を案内し、発達の確認をしている。再健康診査に来た方々が2歳で全て次の段階につながるわけではないが、スクリーニングの流れとしては、適当と判断している。

【発達センター 早川センター長】レインボーの会を立ち上げるときに、豊橋と豊田と比較した。豊橋市20%と豊田市40%であった。その後のキャパシティによるのかと思う。より丁寧に拾えばよいが、親の負担と市のキャパシティとの兼ね合いでこの数字になっている。中核市の中の間となっている。アカデミックなものでなく、様々な要因でこのようになっている。

【相談センター 岩城】こども発達相談センターの目標及び指標(資料2-2)について説明

【三河青い鳥医療療育センター 辻】気になる子のうち支援なく就学した子の割合(支援なく就学した人数/発達に関する障がい児、病気、気になる子)が減少している主な原因は分母にあると思うが、どう考えているか。

【相談センター 林】こちらの数値は、保育課と相談センターで巡回している数値で、私立幼稚園は含まれていない。分母になる数は、園から発達が気になるお子さんの名前から出てくる。園児数に比例するなど、その年によって変動はあると思う。

【三河青い鳥医療療育センター 辻】園の問題があるのではないかという取り上げが、鋭敏になってピックアップされると、目標になる指標が下がるのではないかと思う。指標として適切なのか。

【相談センター 林】園から名前が出てきて、保育課と相談センターで年間最低2回は園に巡回して、園の職員と一緒に見ている中で、このような調査をしている。エビデンスがしっかりしたものがあれば教えていただきたい。

【三河青い鳥医療療育センター 辻】例えば全入園者の中の、支援必要なく入学できた人の割合のほうが客観的指標で、ピックアップしたバイアスを受けにくいと思う。

【発達センター 早川センター長】絶対数と、現場として対象となる園児数の割合という見方の違いかと思う。参考にしたい。

【発達センター 早川センター長】指標と、事業報告と、確認いただくものが分かれており、申し訳ない。事業報告は開示対象だが、数値は開示対象でないので、このように分かれている。できるだけ、開示対象を広げられるよう検討していきたい。

【岡崎市保育園連絡協議会 内藤】目標2の私立保育園数が令和4年度19園に増えている。令和5年度からは20園になると思う。

【相談センター 岩城】修正させていただく。

【医療センター 福本】・こども発達医療センターの目標及び指標(資料2 - 3)について説明

【岡崎女子大 岸本】医療センターに受診後、親のニーズが無くなって、医療の受診が滞ることがあると思うが、1回かかってからの再受診だとどのくらいで対応してもらえるか。

【医療センター 福本】基本的には1か月以内に対応できる。ただ、前回の受診から3年とか空くような場合には、評価に時間がかかるので、少し時間がかかるかもしれない。

【小児科医会 花田】医療センターの卒業生たちが、就学後問題が出てきている。数も増えてきており、扱いが難しく、医療センターにお返しする例が出てきている。医療センターが就学前のお子さんを対象としている宿命と思う。戻ってくる例はどれくらいいるのか。増えているのか？バランスは取れているのか？

【医療センター 福本】年長で卒業する時点で、児童精神科、市民病院、三河青い鳥医療療育センターなどにトリアージし、残りの方をかかりつけ医にお願いしている。その中から就学後に30名くらい戻ってくる。毎年400名の中の30名をどうとらえるかは難しい。戻ってきた方は必要に応じて振り分けさせてもらっている。

【小児科医会 花田】小学校高学年でも、迷うことがある。登校しぶりや、家での問題が出て来ることが増えてきているので、今後も対応をお願いしたい。児童精神科の待ちが長いので、その間の行き場がなく、困ることがありお願いせざるを得ない。今は回っているということでよいか。

【医療センター 福本】小学校高学年になると小児科では難しい。そうになると待ちはあるが、精神科に送ることになる。高学年化すると大変さも増し、また低学年化していると感じる。精神科的な対応ができる所が増えるとありがたい。

【小児科医会 花田】そういう所がもう一つできるとありがたい。

【三河青い鳥医療療育センター 辻】三河青い鳥医療療育センターから見ていると、こども発達センターの就学前の仕組みがうまくいっているからこそ、就学後の問題がクローズアップされていると思う。就学後への取組に手を広げすぎると、就学前がおろそかになることが危惧される。現状の規模でどちらも増やすのは大変だと思う。

【発達センター 早川センター長】相談センターに校長先生のOBが配属されており、医療センターにかかった方を、小学校3年までフォローしてもらえる体制ができつつあるのでそこに期待していただきたい。

【支援センター 加藤】・こども発達支援センターの目標及び指標(資料2 - 4)について説明

【三河青い鳥医療療育センター 辻】地域園通園児数のうち、わかば通園が適切な児数というのは、保育課が決めたことなのか、通園する園が決めた数字なのか？

【相談センター 林】この数は、保育課が管轄している保育園、こども園の中の数になる。

保育園で赤ちゃんの時から在籍しており、3歳児の進級の際に、わかばが適当となってもご家庭の事情などで、わかばに移行できなかった数などになる。

【三河青い鳥医療療育センター 辻】事業団が、新しい施設をどんどん作っていることが、民間の圧迫につながるのではないかと？

【岡崎市福祉事業団 外山】今年度事業団で、つむぎを立ち上げ、来年度むつみを立ち上げている。民間の施設も出来ている中で、事業団としては、あくまでも足りない所をやるのが役割と思っている。むつみを立ち上げるのも単独通園が足りなという状況があり、岡崎市とも話し合う中で立ち上げている。運営だけを考えると1日1時間だけで利用者をたくさん獲得したほうがやりやすいが、ハード面や、給食を提供できるようにするなど、職員数も必要になるため、事業団でしかできない、他ではやれない所、岡崎市として必要されている部分をやっている。

【発達センター 早川センター長】本当はこの領域は大変な事業。大きなスペクトに値する。民間も参入できるよう経済的にも恵まれてこればいいが、ずっとキャパが足りずに困っている中、手上げていただき、やっていただいた。

3 その他意見

【特定非営利活動法人きらら 野崎】医療センターの受診児に1歳児の数がでていたが、1歳児はどのような経路でつながっているのか？

【相談センター小林】幸田町は、レインボーの会のシステムがないため、医療機関から紹介される方がいる。また岡崎市でも、レインボーの会で待つことが基本だが、困り感が強く医療受診を強く希望する場合に保健師相談から紹介することがある。

【医療センター 福本】かかりつけ医から紹介されてくるケースもある。

【岡崎私立幼稚園協会 平岩】啓発についてだが、一番問題と思われるのは、座学で知識を学ぶということではうまくいかないのが実情。小学校の参観に行くと、先生が担任1人で授業を進めているが、ここにもう1人理解者の大人がいたら、子どもたちは安心感で包まれるだろうと思う。子どもの中には個別に配慮がされていたら、授業に参加できそうなタイプの子どもがいる。その子自身も他のクラスメイトも、担任の他にいる人の存在で安心できると思う。なので、豊かな環境を作るための啓発とは、人的配置をすることも含めて考える必要があるのではないかとと思う。

【学校指導課 川原場】理解者、先生を増やすことができればいいが、なかなか難しい。教育委員会として、一斉授業からの脱却を進めており、前を向いて授業するのだけでなく、チーム学習として、学びたい方法で学ぶよう取り組んでいる所である。

【発達センター 早川センター長】:段階的に、前に進めていきたいと思う。

【岡崎市保育園連絡協議会 内藤】レインボーの会を受診された保護者が、その後、保健所からの電話での確認があり、言葉が増えたので3歳児健診まで様子を見ようという

	<p>ことになった。ただ、保護者はもう心配ないと変換され園の方に報告があった。園では困っている状況があったので、疑問が残った。園とレインボーの会とのフィードバックはあるか。</p> <p>【健康増進課 近藤】レインボーの会の結果については、かかりつけ医のダブルフォローの考え方でかかりつけ医には情報を送っているが、それ以外には、送っていない。個人情報のある点もあるので、保護者からの希望あれば対応していく。保健師サイドからも園の方に相談させていただくケースもある。健診の時に、保育園からの連絡票を持たせてもらい、健診で確認することもできる。必要に応じて連携させていただければと思う。</p> <p>【岡崎市保育園連絡協議会 内藤】園からの情報を保護者を持たせたらよいのか。</p> <p>【健康増進課 近藤】できたら保護者にもこういう所を見てきてもらおうとよいと伝えてほしい。健診では診察医も確認している。しかし、レインボーの会ではない。</p> <p>【発達センター 早川センター長】レインボーの会に行けば、かかりつけ医にも連絡がいくため、保護者との相違があるときは、かかりつけ医に相談に行ってもらうのもひとつである。</p> <p>【西三河福祉相談センター 塩谷】子どもの発達にもいろいろな領域があると思うが、いろんなことの積み重ねであると感じている。発達センターでの丁寧な保護者へのフォローとアセスメントを見習って、これからも連携していきたい。</p> <p>【三河青い鳥医療療育センター 辻】前任の水野先生から、Q-SACCSを導入するという提案をしたが、その進捗状況はどのようになっているか。</p> <p>【発達センター 早川センター長】相談センターでアセスメントは済んでいる。提案者の本田先生による講演会を予定しており、そこで助言をいただく予定である。</p> <p>～終了～</p>
<p>事務局 連絡事項</p>	<p>令和5年度開催予定 第2回 令和6年1月16日(火)14:00～</p>